おわりに

大田区立萩中小学校副校長　河野　真典

本校は、大田区理科教育推進拠点校として、令和３年度から大田区教育委員会教育研究推進校「理科」の研究を進めてきました。令和３・４年度は「予想の場面」、令和５・６年度は「問題設定の場面」を研究・提案してきました。そして今回、令和７・８年度は「考察の場面」に着目し、「誰もができる理科授業」の研究を進めてきました。併せて生活科の研究「自然の楽しさや面白さなどのよさに気付き、自分の思いや願いをのびのびと表現できる児童の育成」も同時に推し進めてきました。

理科では、『考察シート』によって、ほとんどの児童が困らず考察を書けるようになってきました。一方で、事実と考えを区別して書くことや、根拠を明確にして表現することには、なお継続した支援が必要であることも明らかになりました。

生活科では、考察につながる書く力はついてきました。しかし、書くことに重きを置くがあまり、本来の五感を使った自由な表現が抑えられていないかという課題を、また考察につながる他の迫り方を模索する必要もあったのではないかと感じています。

しかし、研究を通して思い悩むことも数多くありましたが、講師としてお越しいただいた諸先生方の御指導、御助言により、一歩一歩確実に歩みを進め、本日まで教員一人一人が工夫し、悩みながら授業改善に取り組んできました。

本研究を通して、理科における考察の書き方を丁寧に指導することは、児童が結果をもとに考え、自分の言葉で表現する力を育てるうえで重要であると分かりました。今後も、根拠を明らかにして書く力を高められるよう、実践を積み重ねていきたいです。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、講師としてご指導いただきました文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 有本　淳 先生、大田区教育委員会 STEAM 教育推進専門員　清水　一豊 先生をはじめ、大田区教育委員会の先生方のご支援とご指導に心より御礼申し上げます。